

③ 御廟山 (ごびょうやま)

東林院跡向いの高台は御廟山 (ごびょうやま) と呼ばれ、頂上には、開山智徳上人 (ちとくしょうにん) や加賀藩初代藩主前田利家をはじめとする歴代藩主の供養塔があります。智徳上人は、奈良時代に石動山を開いた開山と伝えられ、供養塔は、元禄7年 (1694) に法印祐遍 (ほういんゆうへん) が願主となって建立したものです。祐遍は、石動山合戦で衰退した同山の復興に活躍し、石動山中興の祖としてあがめられました。



④ 行者堂 (ぎょうじゃどう)

修験道の開祖「役行者 (えんのぎょうじゃ)」を祀ったお堂。役行者は、大和国葛城山で、藤の皮を着て花の汁をすいながら、30年にわたって修行し、鬼神を使役する力、空を飛行する力を体得したとされる修験者です。建物は、明治7年に最勝講村 (さいすこむら) が19円で買い取り、鎮守の天神社拝殿として守り伝えてきました。昭和63年に拝殿の改築を機に解体し、翌平成元年に石動山の元の位置に移築、復元されました。



⑤ 伊須流岐比古神社拝殿

もと神輿堂もしくは権現堂とよばれ、元禄14年 (1701) に建立され、五社権現の5つの神輿が安置されていました。その背後には、明治の初め石動山山頂の大御前にあった本社 (大宮・白山宮) を移築した本殿があります。大宮 (おみや)、白山宮 (はくさんぐう)、梅宮 (うめのみや)、火宮 (ひのみや)、剣宮 (つるぎのみや) に祀られていた五社権現を合祀したものです。



本殿は承応2年 (1653)、前田利常の寄進で建立されたもので、大工は加賀藩の宮大工黒田太右衛門尉藤原正重 (くろだうえもんのじょうふじわらまさしげ) です。本殿と拝殿はともに県指定文化財です。同神社には利家をはじめ歴代藩主が石動山に宛てた古文書が残されており現在、石動山資料館に保管されています。

⑥ 五重塔跡 (ごじゅうのとうあと)

昭和52年、発掘調査によって発見されました。天正10年 (1582) の石動山合戦で焼失したのち再建されず、地中に埋もれたままでした。礎石に生々しい焼痕が見られるほか、周辺から焼けた木材、灰などが出土し、兵火のすさまじさを物語ります。石動山の本山であった京都の勧修寺 (かじゅうじ) の文書には、応永23年 (1416) に同寺別当職の慈尊院実順 (じそんいんじつじゅん) が導師を勤めて塔供養が行われたとあります。



⑦ 石動山城跡 (せきどうさんじょうあと)

石動山城は、中世の山城で、大御前からの峰続きの高台、標高約520mに築かれています。南眼下には、石動山堂塔・院坊群が連なる山内全域が、さらに、その後方に立山連峰を雲上にいただく富山湾沿岸域が見えます。一旦ことあれば、石動山城に立て籠もり、槍や長刀をもって戦う僧兵、石動山衆徒の姿が目に見えます。天正4年 (1577)、上杉謙信 (うえずぎけんしん) は能登を手中に収めるため、七尾城の攻略を進めますが、その背後を押さえる目的で配下の石動山に同城を築き、直江大和守景綱らを守将として配しました。謙信が七尾城攻めの際ここで陣を構えたといわれています。



年 (1577)、上杉謙信 (うえずぎけんしん) は能登を手中に収めるため、七尾城の攻略を進めますが、その背後を押さえる目的で配下の石動山に同城を築き、直江大和守景綱らを守将として配しました。謙信が七尾城攻めの際ここで陣を構えたといわれています。



●道の駅「織姫の里なかのと」から……車で約20分

石動山資料館・大宮坊 利用案内

- 開館時間 9:00~17:00
- 入館料 石動山資料館 個人 大人 200円 小人 (小・中・高) 100円 団体 (20名以上) 大人 160円 小人 無料
- 休館日 毎週火曜日 (火曜日祭日の場合は翌日) 12月1日~3月20日 (冬期休館)
- 大宮坊 見学無料

●問い合わせ先

中能登町 生涯学習課

〒929-1715 石川県鹿島郡中能登町一青こ部19番地1
TEL.0767-74-2735
ホームページアドレス <http://www.town.nakanoto.ishikawa.jp>
Email bunka@town.nakanoto.ishikawa.jp



石川県中能登町
国指定史跡
能登
石動
山

いするぎ信仰の拠点

石動山散策マップ

石動山大御前564m

史跡とブナの森

湖畔公園コロサ(七尾市)



ブナ林

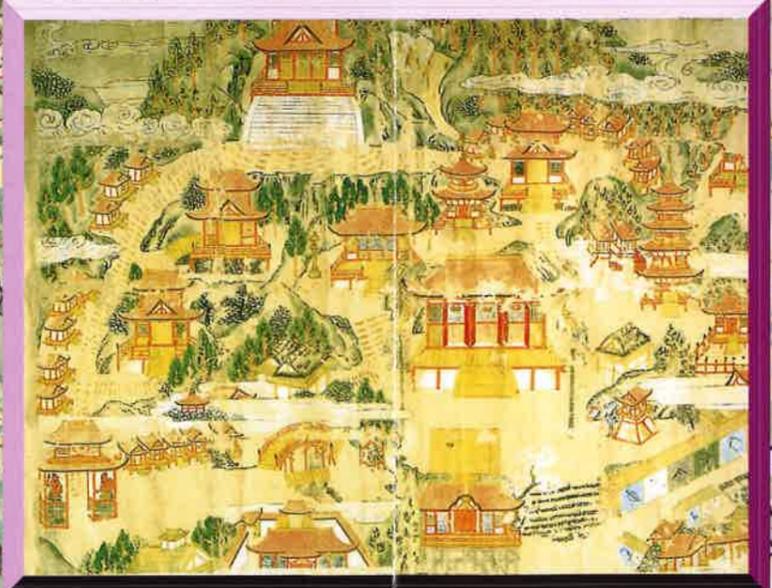
能登では希少なブナの原生林であり、その規模は15㍍といわれています。ブナ林は人間をリラックスさせるアルファー波が一番出る林といわれています。

展望台

案内標識
林道石動山2号線
トイレ



能登歴史公園区域



▲石動山古絵図：天正10年(1582)、石動山合戦で焼き討ちされる以前の繁栄を物語る唯一の資料

豊かな森林

① 大宮坊 (おおみやぼう)

大宮坊は、石動山の中心的な坊で、最盛期(中世)には360余坊、江戸時代には58坊すべてを支配した別当寺(寺務を取り仕切る本坊)として、最も高い格式と権威を有していました。
ここでは、一山の支配・運営、加賀藩や京都の本山との交渉、年中行事などのぼう大な寺務が処理されていました。
平成10年度から、発掘調査の成果と文献資料をもとに復元工事が進められ、平成14年11月に完成しました。



② 旧観坊 (きゅうかんぼう)

江戸時代に存在した58坊の院坊のうち、現存する唯一の建物です。農家風の構えですが、各所に寺坊としての風格を残しています。江戸時代後期の建築で、県指定文化財となっています。絵様舟肘木(えようふなひじき)や化粧垂木(けしょうだるぎ)にかつての寺坊の面影を偲ぶことができます。

